

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0548

(注)本稿は 2021 年 11 月 7 日から 21 日まで 8 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.11.24

前田 高行

黒字の米系+仏系 3 社、赤字の英蘭系 2 社:2021 年 7-9 月期五大国際石油企業決算速報

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 純利益	2
2. 売上高	3
3. 売上高利益率	5
4. 設備投資	6
5. キャッシュ・フロー	7

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、bp、TotalEnergies 及び Chevron)の7-9月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益、売上高利益率、設備投資、キャッシュフロー及び石油・天然ガス生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに過去 2 年間の各社四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2021/1029_ExxonMobil-earns-6.8-billion-in-third-quarter-2021

Shell:

<https://www.shell.com/investors/results-and-reporting/quarterly-results/2021/q3-2021.html>

bp:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/third-quarter-2021-results.html>

TotalEnergies:

<https://totalenergies.com/media/news/press-releases/third-quarter-2021-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-announces-third-quarter-2021-results>

なお過去の四半期業績及び2010年から2020年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

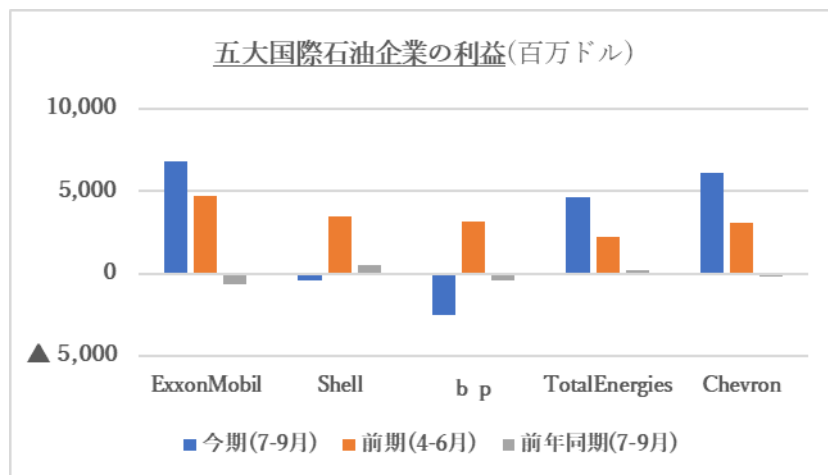
<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>

1. 純利益¹

(ExxonMobil は68億ドルの利益、Shell, bp は損失！)

(1) 当期利益



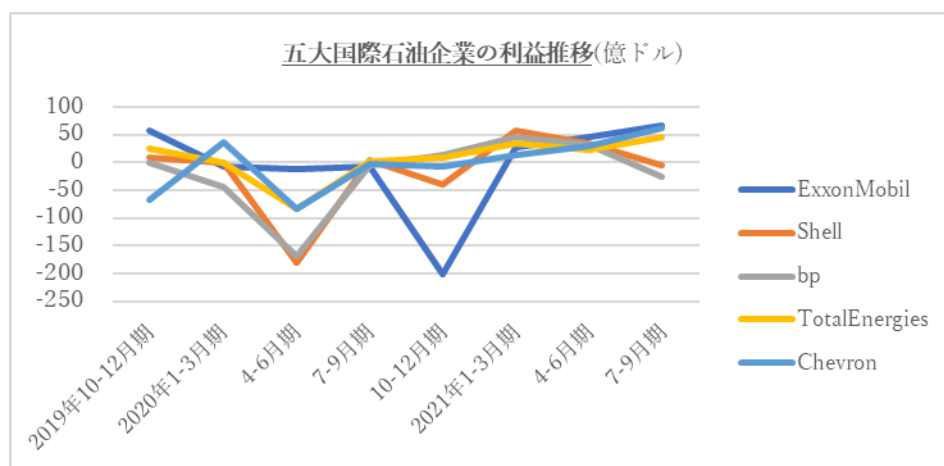
国際石油企業(以下 IOC)5社の7-9月期は明暗が分かれた。ExxonMobil、Chevron 及び TotalEnergies は前期に続き利益を計上したが、Shell 及びbpは前期の黒字から今期は赤字に転落している。前期4-6月期は全社が20億ドル以上50億ドル弱の黒字であり、コロナ禍

の最悪の状況を脱したと見られたが、今期は各社の損益に大きな差が出ている。

5社の中で利益が最も多かったのは ExxonMobil の68億ドルである。これに次ぐのが Chevron(61億ドル)及び TotalEnergies(46億ドル)の2社であり、いずれも前期の1.5~2倍前後の利益を確保している。一方、bp及び Shell はそれぞれ25億ドル及び4億ドルのマイナスであった。

(昨年の悪夢から回復した今年上半期、下半期は流動的！)

(2) 2019年7-9月期以降今期までの利益の推移



ここでは過去2年間、すなわちコロナ禍発生以前の2019年10-12月期から今期(2021年7-9月期)までの利益の推移を追ってみる。2019年10-12月期は ExxonMobil が57億ドルの利益を

計上、TotalEnergies 及び Shell もそれぞれ26億ドル、10億ドルの黒字であった。これに対してbpは2千万ドルの利益にとどまり、Chevron は▲66億ドルの大幅な損失を計上した。

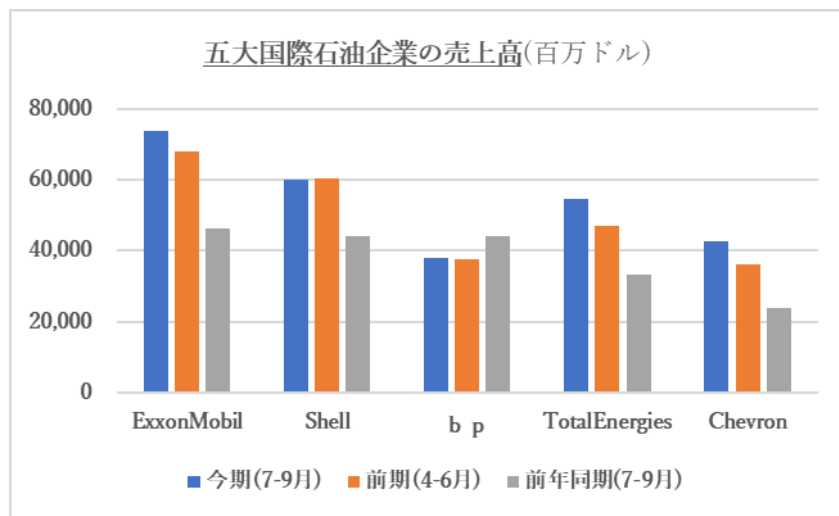
しかし2020年に入るとコロナ禍により世界景気が急落しエネルギー需要も激減した。このため各社の業績は大幅に悪化、1-3月期には bp の▲44億ドルの欠損をはじめ Chevron 及びTotalEnergiesを除く3社が赤字決算となった。そして4-6月期は全社赤字決算となり、各社は Shell▲181億ドル、bp▲168億ドル、Total、▲84億ドル、Chevron▲83億ドルと大幅な損失を余儀なくされた。この時、▲7億ドルの損失にとどまった ExxonMobil も、翌10-12月期には▲201億ドルの赤字を計上、2020年は各社とも最悪の決算となった。

今年に入り米国および中国の経済に回復の兆しが見え、各社の業績も急回復し、1-3月期及び4-6月期は全社がプラスであった。しかし7-9月期は上記の通りExxonMobil、TotalEnergies 及びChevronの3社が引き続き利益を計上、いずれも1-3月期、4-6月期を上回る好決算であったのに対して、bp、Shellの2社はマイナスに転落し、業績の明暗が分かれている。

2. 売上高²

(ExxonMobilはじめ前年同期比1.5倍前後の売上増、減少したのはbp1社のみ！)

(1) 当期売上高



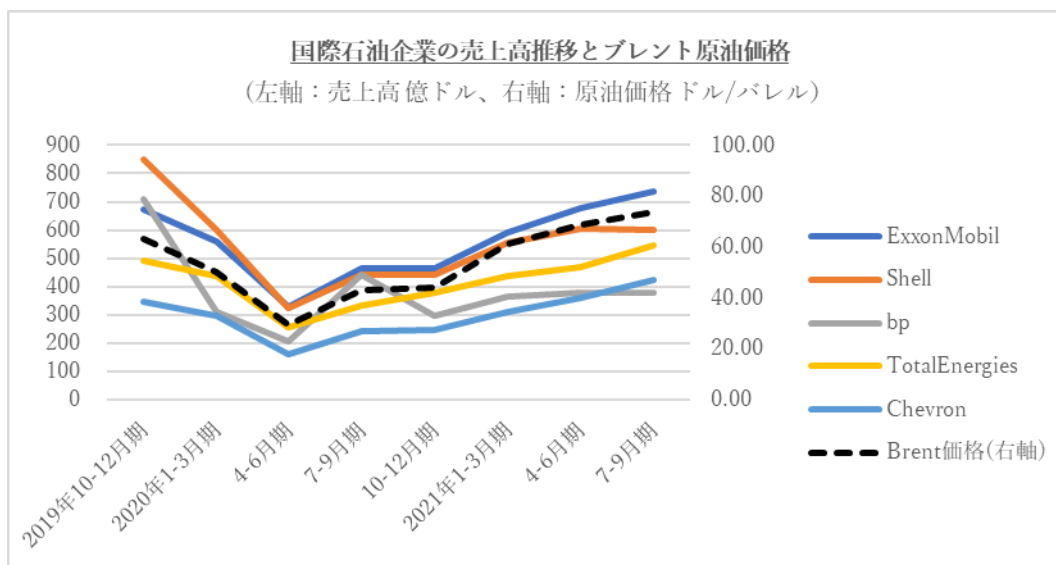
2021年7-9月期の売上高は5社の中ではExxonMobilが738億ドルと最も多くShellが600億ドルで続いている。TotalEnergiesはExxonMobilより約200億ドル少ない547億ドルであり、Chevronが426億ドル、最も少ないbpは379億ドルであった。

ExxonMobilの売上高を100とした場合、Shellは81、TotalEnergies74、Chevron58、bp51であり、bpの売上高はExxonMobilの半分である。前項で触れた通り利益面ではExxonMobil、Chevron、TotalEnergies、bp、Shellの順である。ExxonMobil及びShellは利益、売上共1位を占めており、一方bpは利益、売上共に5社中の最下位である。

前年同期(2020年7-9月期)と比較すると、ExxonMobil及びChevronは損失から利益に転換しておりTotalEnergieも大幅な増益である。一方、Shellは利益から損失に転落しており、bpは損失が大幅に拡大している。

(bp以外の各社はほぼ原油価格に連動して売上高アップ！)

(2)2019年10－12月期以降今期までの売上高の推移



2019年10－12月期から今期(2021年7－9月期)までの売上高の推移を見ると、2019年第4四半期の売上高は851億ドルのShellを筆頭に、bpが711億ドル、ExxonMobil672億ドルと続き、TotalEnergiesは493億ドル、Chevronが346億ドルであった。

その後、2020年第1四半期から第2四半期にかけて各社とも売上高が急激に減少した。特に第2四半期は新型コロナ禍の影響で経済活動が大きく減速し、各社は販売価格及び販売量の両面で過去2年間では最も厳しい売上減少を強いられた。この期の売上高はExxonMobil、Shellが330億ドル、TotalEnergiesは260億ドル、bp210億ドル、Chevron160億ドルであり、各社押しなべて2019年10－12月期の5割乃至3割にとどまっている。

その後、bpを除く各社の売上は多少のばらつきはあるものの、今期まで5期連続して増収となり、今期(2021年7－9月期)はExxonMobil、TotalEnergies及びChevronは2019年10－12月期を超えている。但しShellは未だ7割の水準であり、特にbpは2019年10－12月期の2分の1にとどまっている。

売上高の変動に大きな影響を与えるのが原油価格であるが、代表的な油種であるBrent原油の各四半期の平均価格を見ると以下の通りであった(価格はドル/バレル)。

63.08ドル(‘19年10-12月期)→50.06ドル(‘20年1-3月期、前期比▲20.6%)→29.55ドル(‘20年4-6月期、前期比▲41.0%)→42.94ドル(‘20年7-9月期、前期比+45.3%)→44.16ドル(‘19年10-12月期、前期比+2.8%)→61.12ドル(‘20年1-3月期、前期比+38.4%)→68.97ドル(‘21年4-6月期、前期比+12.80%)→73.51ドル(‘21年7-9月期、前期比+6.6%)

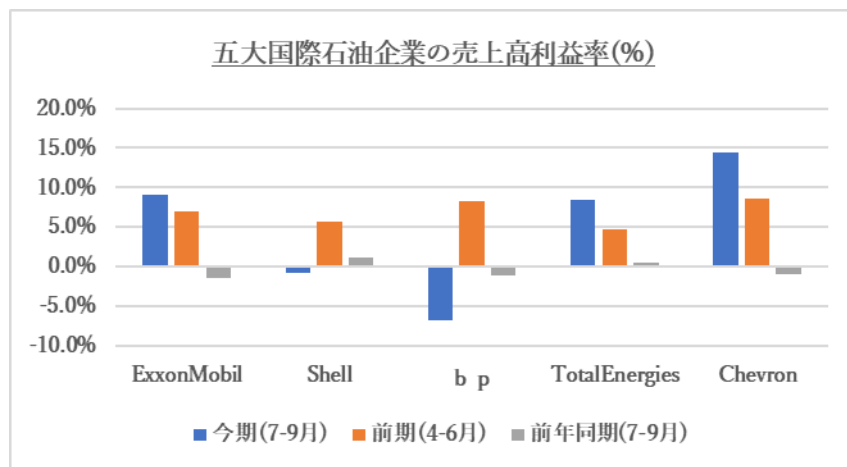
これに対して5社の対前期比売上高の平均増減比率は、▲25.5%(‘20年1-3月期)→▲41.6%(‘20年4-6月期)→+53.9%(‘20年7-9月期)→▲2.9%(‘19年10-12月期)→+23.5%(‘21年1-3月期)→+10.0%(‘21年4-6月期)→+8.6%(‘21年7-9月期)であった。両者を比較すると全期間を

通じて売上高と原油価格との相関関係が極めて高いことがわかる。

3. 売上高利益率

(コロナ禍前の利益率を確保した ExxonMobil と Chevron !)

(1) 当期売上高利益率 (図: <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-53.pdf> 参照)

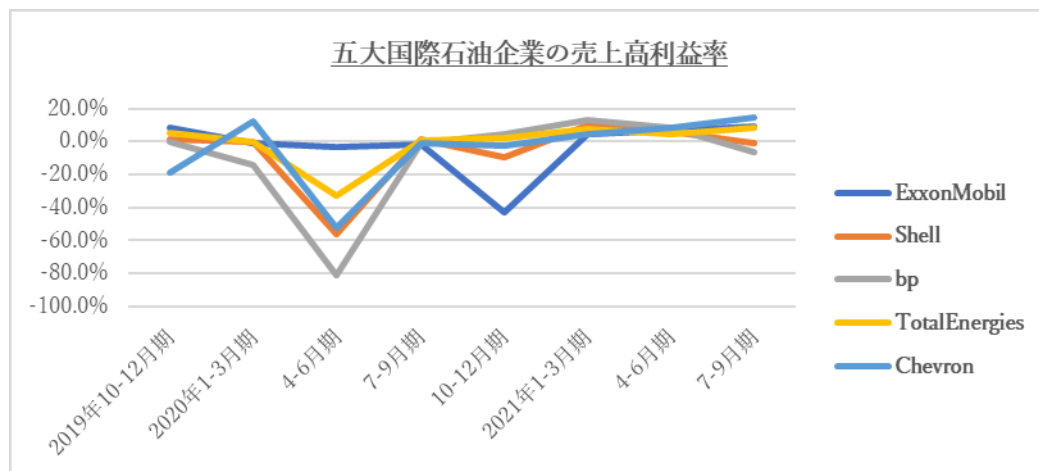


IOC5社の今期売上高利益率はChevronが14.4%と最も高く、続いてExxonMobilが9.1%、TotalEnergies8.5%であり、bp及びShellはマイナスであった。前期及び今期を見る限りExxonMobilとChevronはコロナ禍以前の高水準の利益率を回復したように見える。

に見える。

(悪夢の2020年！)

(2) 2019年10-12月期以降今期までの利益率の推移



2019年10-12月期から今期(2021年7-9月期)までのIOC5社の売上高利益率の推移を見ると、2020年は各社とも大幅な下振れを経験しており悪夢の一年間であったと言えよう。

2019年10-12月期の売上高利益率はExxonMobilが8.5%と最も高く、Chevronは5社中でただ一社▲19.1%の大幅なマイナスであった。2020年に入るとまず1-3月期にbp及びExxonMobilがマイナスの利益率に転落、4-6月期には全社がマイナス決算となった。損失率もShell、bp及びChevronは▲50%以上を記録している。比較的損失率が低かったExxonMobilも10-12月期には▲43%の大幅なマイナスを記録、昨年1年間にはIOC各社いずれも厳しい決算を余儀なくされた。

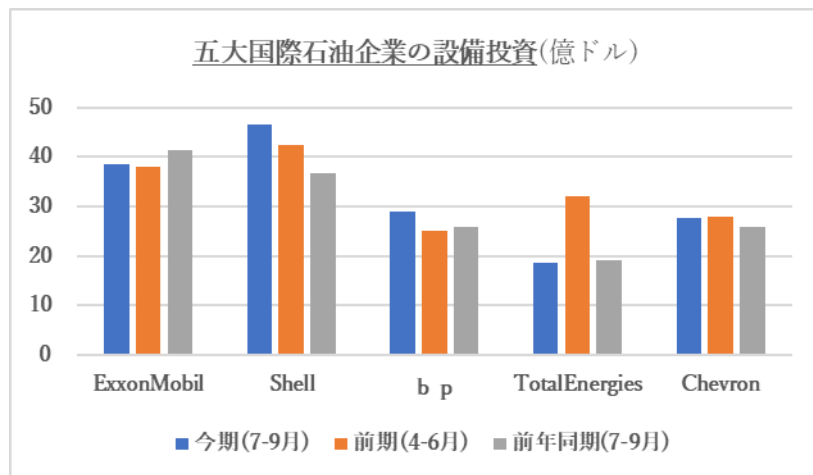
2021年に入り各社とも業績が回復、1-3月期は全社の利益率がプラスとなり、この傾向は4-6月期も続いた。但し7-9月期にはExxonMobil、Chevron及びTotalEnergies3社の利益率がさ

らに改善した一方、bp及びShellはプラスからマイナスに転じており、明暗が分かれた。

4. 設備投資³

(Shell が46億ドルでトップ！)

(1) 当期設備投資

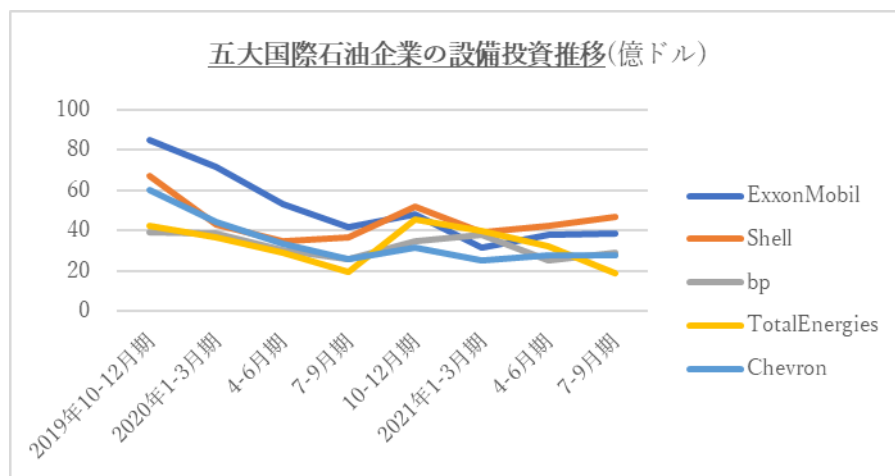


国際石油企業5社の7-9月期設備投資は、Shell が46億ドルで最も多く、これに次ぐのが ExxonMobil の39億ドルである。その他の3社はbp 29億ドル、Chevron28億ドルで、TotalEnergiesは5社中で最も少ない19億ドルであった。前期(4-6月期)に比べると、bp、Shellは増加、ExxonMobil及びChevronは横ばいであるが、TotalEnergiesは▲42%と大幅に減少している。

bil及びChevronは横ばいであるが、TotalEnergiesは▲42%と大幅に減少している。

(横ばい続ける4社、半減させた TotalEnergies !)

(2) 2019年10-12月期以降今期までの設備投資の推移



2019年10-12月期の各社の設備投資は ExxonMobil の85億ドルを筆頭にShell、Chevronが60億ドル台で続き、TotalEnergies及びbpは40億ドル前後であった。2020年に入り各社の設備投資は急減し、2020年7-9月期には各社ともほぼ半減している。その後10-12月期は少し回復したが、2021年1-3月期はExxonMobilが前期比▲34%減の37億ドルであった他、bpを除く4社はいずれも減少した。そのbpも4-6月期は前期比▲34%であった。今期(7-9月期)はExxonMobil、Shell、bp、Chevron4社はほぼ横ばいであるが、そのような中でTotalEnergiesのみは今年に入ってから3期連続で設備投資を削減しており、今期は昨年10-12月期の4割に落ち込んでいる。

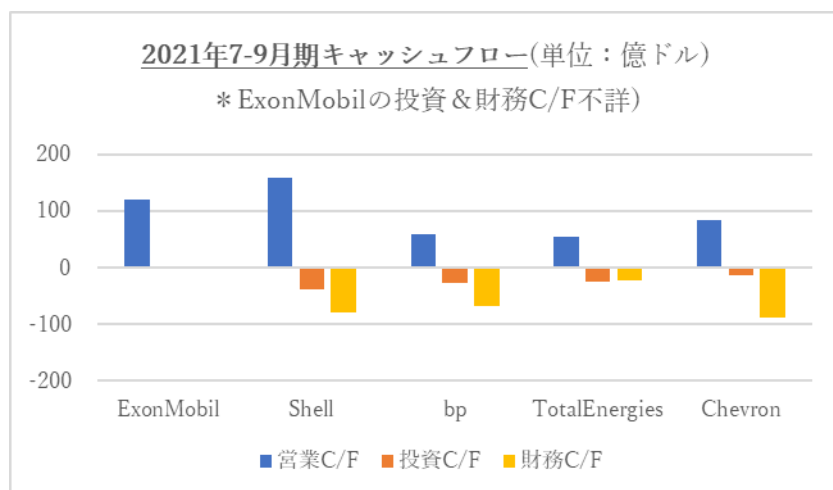
9月期には各社ともほぼ半減している。その後10-12月期は少し回復したが、2021年1-3月期はExxonMobilが前期比▲34%減の37億ドルであった他、bpを除く4社はいずれも減少した。そのbpも4-6月期は前期比▲34%であった。今期(7-9月期)はExxonMobil、Shell、bp、Chevron4社はほぼ横ばいであるが、そのような中でTotalEnergiesのみは今年に入ってから3期連続で設備投資を削減しており、今期は昨年10-12月期の4割に落ち込んでいる。

5月に公表された IEA レポートは2050年までの炭酸ガス排出量ネットゼロを目標とし、化石燃料供給プロジェクトへの新たな投資を控えるよう提言している⁴。またオランダの裁判所が Shell に対して2030年までに排出量を2019年比で45%削減するよう命じており(Shell は控訴中⁵)、ExxonMobil の株主総会では環境対策を求める投資ファンドから取締役2名の選任を押し付けられ

た⁶。さらに11月に英国で開催された国連COP26では化石燃料の使用に強い警告を発している。このように石油企業を取り巻く環境は厳しさを増しており、各社とも従来の設備投資方針の見直しを迫られている。

5. キャッシュフロー⁷

(1) 当期キャッシュフロー



(注) ExxonMobilの7-9月期決算書類は投資C/F及び財務C/F不詳。

(1-1) 営業C/F⁸

今期の5社の営業C/FはShellが160億ドルで最も多く、次いでExxonMobilが121億ドル、Chevronが86億ドルであり、bp及びTotalEnergiesはそれぞれ60億ドル、56億ドルであった。

(1-2) 投資C/F⁹

(ExxonMobilを除く)4社の投資C/Fによるキャッシュの流出はShellが最も多く38億ドルであった。これに次ぐのがbp26億ドル、TotalEnergies25億ドルであり、最も少ないChevronは13億ドルであった。

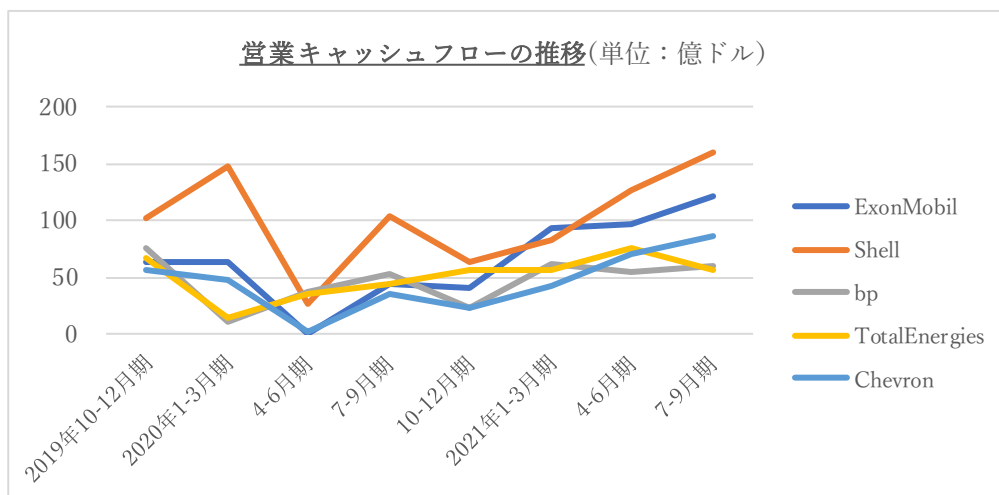
(1-3) 財務C/F¹⁰

(ExxonMobilを除く)4社の財務C/F収支はChevronが最も多く88億ドルであった。これに次ぐのがShell79億ドル、bp68億ドルであり、最も少ないのはTotalEnergies(22億ドル)であった。財務C/Fは借入金の支払い金利、借入金の返済あるいは新規借入で構成され、通常、投資が少ない時は既存借入金を返済し、新規借入を控えて財務の健全化を図ろうとすることが多い。

(2) 2019年10-12月期以降今期までのキャッシュフローの推移

(100億ドルを超えたShellとExxonMobilの営業C/F!)

(2-1) 営業 C/F

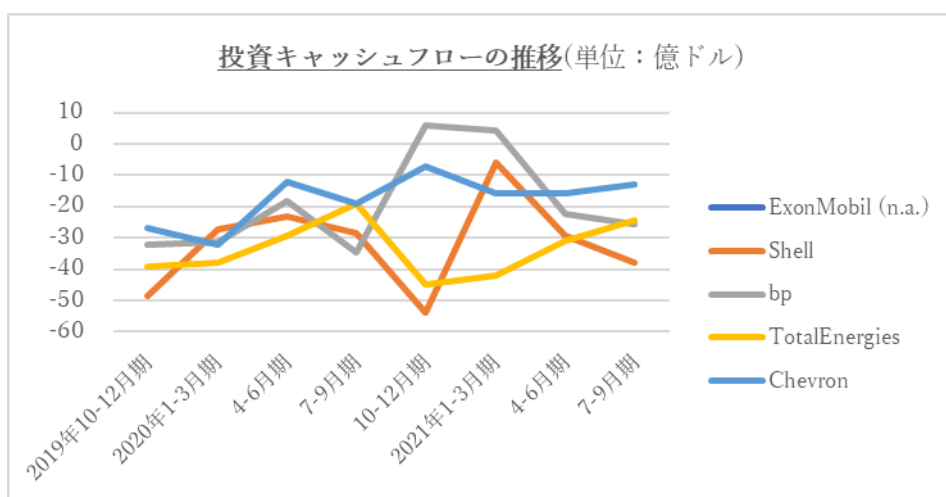


2019年10—12月期の5社の営業 C/F は Shell が103億ドルで最も多く、次いでbpが76億ドル、TotalEnergies 及びExxonMobilがそれぞれ66億ドル及び64億ドルであり、Chevronは最も少ない56億ドルであった。2020年に入ると各社の営業 C/F は激減し、同年1—3月期に bp 及び TotalEnergies は10億ドル強、続く4—6月期には Chevron, ExxonMobil がほぼゼロ、Shellが26億ドルと5社全ての営業C/Fが大きく落ち込んだ。

同年後半から復調の兆しが見られ、2021年に入り、石油需要が回復、油価も上昇したことにより営業C/Fの増加のテンポが早まり、7—9月期にはShellとExxonMobilが100億ドルを超えChevronも過去2年間で最高を記録している。

(昨年後半以降每期大きく変動した投資C/F)

(2-2) 投資 C/F



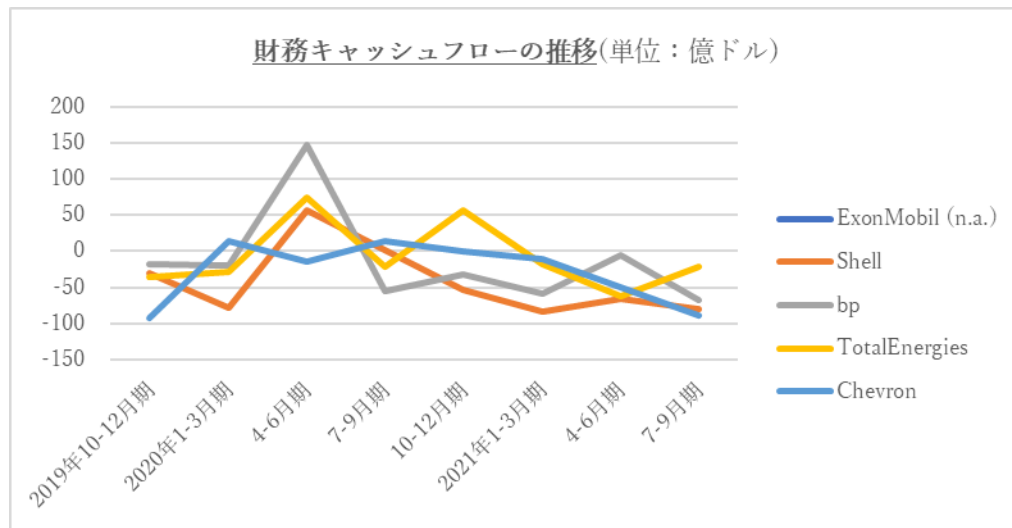
2019年10-12月期の ExxonMobilを除く4社の投資 C/F が最も多かったのはShellの▲49億ドルであり、以下はTotalEnergies(▲39億ドル)、bp(▲32億ドル)、Chevron(▲27億ドル)であった。

2020年の1—3月期から7—9月期までの3四半期は各社とも大きな変化は無かったが、同年10—12月期はShellとTotalEnergiesが大きく増加した(Shell▲28億ドル→▲54億ドル、

TotalEnergies▲19億ドル→▲45億ドル)。一方、bp及びChevronは大きく減少しており、特にbpは投資額が純減(▲35億ドル→+6億ドル)となった。同社の投資C/Fは2021年1-3月期も純減(+4億ドル)であった。今期(7-9月期)は4社の投資C/Fは前期(4-6月期)と大きな変動はなく、Shellの▲38億ドルを筆頭に、bp▲26億ドル、TotalEnergies▲25億ドル、Chevron▲13億ドルとなっている。

(運転資金調達に走った2020年！)

(2-3)財務C/F

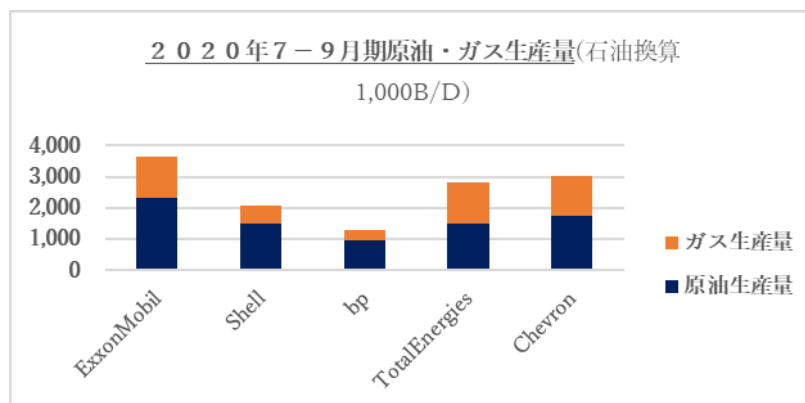


(ExxonMobilを除く)4社の2019年10-12月期の財務C/F収支はChevronが▲93億ドルと際立って多い。その他3社はTotalEnergies▲36億ドル、Shell▲31億ドル、bp▲17億ドルであった。2020年に入ると1-3月期にChevronが+14億ドルと新規借入額が返済額を上回り、この傾向は4-6月期にさらに顕著となり、同期の財務C/Fはbp+147億ドル、TotalEnergies+75億ドル、Shell+57億ドルといずれも大幅なプラスであった。2020年に入りコロナ禍が世界に蔓延、エネルギー需要が急減した結果、各社が運転資金の不足を補うため巨額の借入を行った結果である。

各社は2021年に入り先行きの見通しが多少とも明るくなったと判断したようであり、投資C/Fの大きな変動は治まりつつあるようである。

(原油・天然ガス共に ExxonMobil がトップ！)

6. 石油及び天然ガス生産量



(1)原油生産量¹¹

2021年7-9月期の原油生産量が最も多かったのはExxonMobilの2,313千B/Dであり、5社の中でただ一社2百万B/Dを超えている。ExxonMobilに次いで生産量が多いのはChevron(1,757千B/D)でExxonMobilの8割であ

る。第3、4位は TotalEnergies(1, 517千 B/D)、Shell(1, 497千 B/D)。bp は最も少ない975千 B/D で5社の中で唯一100万 B/Dを下回っている。

(2)天然ガス生産量¹²

天然ガスの生産量が最も多いのは ExxonMobil の日産81億立方フィートで石油に換算すると1, 352千 B/D であった。2位以下は Chevron の77億立方フィート(石油換算1, 277千 B/D)、TotalEnergies71億立方フィート(石油換算1, 297千 B/D)と続き、第4位は Shell の34億立方フィート(石油換算584千 B/D)であり、最も少ないのはbpの20億立方フィート(石油換算338千 B/D)であった。

(3)石油・天然ガス合計生産量¹³

石油と天然ガスの合計生産量が最も多いのは ExxonMobil であり石油換算で3, 665千 B/D である。2位は Chevron の3, 034千 B/D でこの2社が合計生産量3百万 B/D を超えている。3位 TotalEnergies(2, 814千 B/D)及び Shell(2, 081千 B/D)が200万 B/D 台で、5社の中で最も少ないのは BP の1, 313千 B/D であった。ExxonMobil の生産量を100とした場合、他の4社は Chevron 83、TotalEnergies 77、Shell 57、bp は36となっている。

各社の石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油63%、天然ガス37%であり、その他の4社は Chevron(石油58%:天然ガス42%)、TotalEnergies(石油54%:天然ガス46%)、Shell(石油72%:天然ガス28%)、bp(石油74%:天然ガス26%)である。5社いずれも石油の比率が天然ガスを上回っているが、石油の比率が最も高いのは bp(74%)で、逆に最も低いのは TotalEnergies(54%)である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

¹ 「純利益」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Net income attributable to ExxonMobil (U.S. GAAP)
Shell:Incom/loss attributabel to shareholders
bp:Profit (loss) for the period; Attributable to BP shareholders
TotalEnergies:Netincome (TotalEnergies share)
Chevron:Net income

² 「売上高」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Total revenues and other income
Shell:Total revenue and other income
bp:Total revenue and other income
TotalEnergies:Sales
Chevron:Sales and other operating revenues

³ 「設備投資」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Capital and Exploration Expenditures
Shell:Capital expenditure, Consolidated Statement of Cash Flow
bp:Capital expenditure
TotalEnergies:12. Net investments
Chevron:Capital & Exploratory Expenditure, Worldwide

⁴ 'Net Zero by 2050 A Roadmap for the Global Energy Sector'
<https://www.iea.org/reports/net-zero-by-2050>

⁵ 'Shell response to Dutch court ruling in case brought by Milieudefensie!'
<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2021/shell-response-to-dutch-court-ruling-in-case-brought-by-milieudefensie.html>

⁶ 'ExxonMobil announces preliminary results in election of directors'
https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2021/0526_ExxonMobil-announces-preliminary-results-in-election-of-directors

⁷ キャッシュ・フロー(cash flow、現金流量)とは、現金の流れを意味し、主に、企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいう。欧米では古くからキャッシュ・フロー会計にもとづくキャッシュ・フロー計算書(Cash flow statement, C/F)の作成が企業に義務付けられており、日本でも 1999 年度から上場企業は財務諸表の一つとしてキャッシュ・フロー計算書を作成することが法律上義務付けられている。

キャッシュ・フローは(1)営業キャッシュ・フロー(日常的な、生産・営業活動によって稼得する現金と、それに要する現金コストの収支)、(2)投資キャッシュ・フロー(工場新設やビル建設・トラック購入などの設備投資・有価証券投資に要する現金支払いと資産売却による収入)及び(3)財務キャッシュ・フロー(財務活動による現金の収支)の3種類があり、これらの総合収支が会計期間内の現金収支であり、期首(前期末)の現金(及び現金相当物)の残高に期間内の収支を加えたものが当期末の現金(及び現金相当物)となる。(Wikipedia より)

⁸ 「営業キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Cash Flow form Operating Activities (U.S. GAAP) / Net cash provided by operating activities (U.S. GAAP)
Shell:Cash flow from operating activities
bp:Net cash provided by operating activities, Condensed group cash flow statement
TotalEnergies:Cash flow from operating activities, TotalEnergies financial statements
Chevron:Net cash provided by Operating Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁹ 「投資キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
Shell:Cash flow from investing activities
bp:Net cash used in investing activities

TotalEnergies:Cash flow used in investing activities, TotalEnergie financial statement
Chevron:Net cash Used for Investing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow
(Preliminary)

¹⁰「財務キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

Shell:Cash flow from financing activities

bp:Net cash provided by (used in) financing activities

TotalEnergies:Cash flow from (used in) financing activities, Total financial statement

Chevron:Net cash provided by (Used for) Financing Activities, Summerrized Statement of
Cash Flow (Preliminary)

¹¹「原油生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net production of crude oil, natural gas liquid, bitumen and tsynthetic oil

Shell:Liquid production available for sale

bp:Production (net of royalties), Liquids

TotalEnergies:

Chevron:Net liquid production

¹²「天然ガス生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Natural gas production available for sale

Shell:Natural gas production available for sale

bp:Production (net of royalties), Natural gas

TotalEnergies:Hydrocarbon production, Gas

Chevron:Net natural gas production, Worldwide

¹³「石油・天然ガス合計生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:

Shell:Total production in barrels of oil equivalent

bp:Production (net of royalties), Total hydrocarbons

TotalEnergies:

Chevron:Total net oil-equivalent production